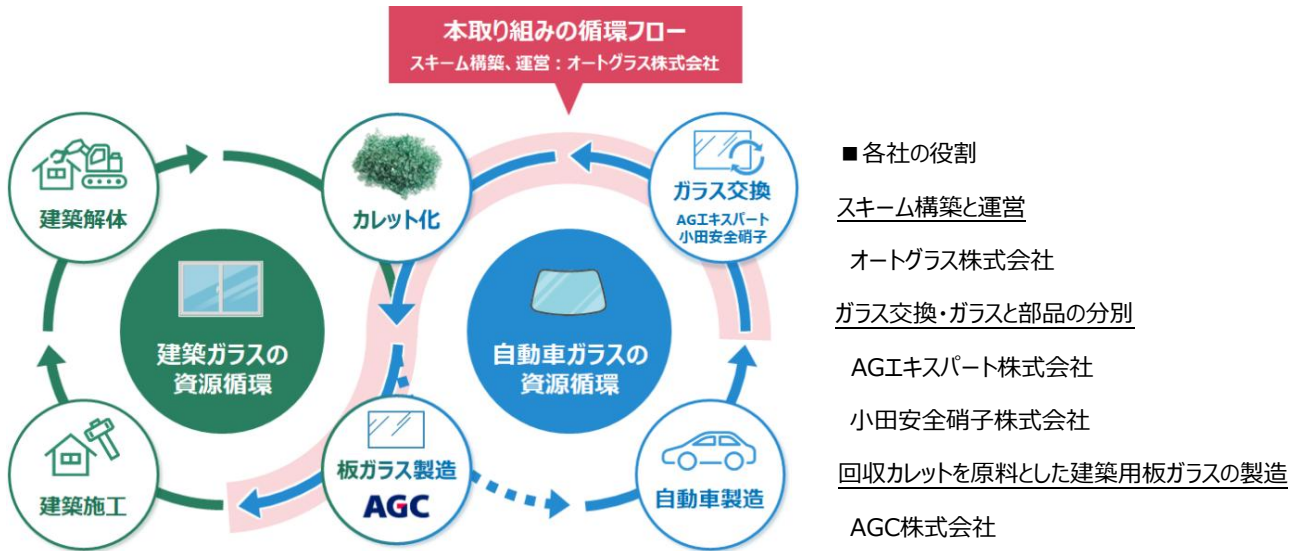


2026年6月19日

## AGC、廃フロントガラスの再資源化に向けた実証実験を開始

－国内初 自動車廃ガラスを建築用板ガラス原料として再資源化－

AGC株式会社（代表取締役社長：平井良典、以下「AGC」）は、連結子会社で補修用自動車ガラス事業を展開するオートグラス株式会社（代表取締役社長：羽藤 正史、以下「オートグラス」）を通じて、自動車修理・交換時に発生する廃フロントガラスの回収および再資源化に向けた実証実験を、2026年6月から開始します。本実証実験では、AGCがこれまで建築用ガラスの資源循環で培った知見を活かして、産業廃棄物として処理されてきた自動車用フロントガラスを回収し、建築用板ガラスの原料として再資源化するスキームの構築を目指します。自動車廃ガラスを建築用板ガラスの原料として循環利用する体系的な施策は国内初<sup>\*1</sup>の試みです。



### 自動車修理・交換で発生する廃ガラスの現状と課題

国内では、事故や飛び石被害、経年劣化などに伴い、自動車ディーラーやガラス施工店で年間1万トン以上の自動車廃ガラスが発生しているとされています。一方で、処理コストや回収の難しさから、十分なリサイクルの仕組みは確立されておらず、その多くが産業廃棄物として埋め立て処分されているのが実情です。特に、自動車用フロントガラスは、衝突時の安全性を高めるために、ガラスとガラスの間に樹脂中間膜を貼り合わせた構造となっており、リサイクルにあたっては、ガラスと樹脂を分離する工程が必要です。このため、一般的な板ガラスに比べて再資源化が難しい素材とされてきました。

### 実証実験の概要

本実証実験では、補修用自動車ガラスの卸販売・デリバリーを担うオートグラスと、全国の自動車ガラス施工店とのネットワークを活用し、廃フロントガラスの回収から再資源化までを一貫して行う新たな資源循環スキームを検証します。回収した廃フロントガラスから精製したカレット<sup>\*2</sup>を、AGCの建築用板ガラスの原料として活用できるかを検証し、品質・安定供給性・実用性の観点から評価を行います。再資源化材であるカレットを使用することで、ガラス原料由来のCO<sub>2</sub>や

【本件に関するお問い合わせ先】

AGC株式会社 広報・IR部 [お問い合わせフォーム](#)

原料調達・製造時のエネルギー起源CO<sub>2</sub>を削減でき、自動車廃ガラス 1 トンあたりで約 0.6 トンのGHG排出量削減が見込まれます（Scope1+2+3）。これにより、廃フロントガラスの埋め立て処分量削減と、資源循環型社会の実現に向けた実効性のあるモデル構築を目指します。



今後、自動車ガラスのリサイクルスキームの実現可能性を検証するとともに、対象エリアの拡大や施工店、自動車メーカー、損害保険会社など、パートナーとの連携強化を進めていきます。これらの取り組みを通じ、国内における自動車廃ガラスの回収・再資源化を拡大し、業界全体の資源循環インフラの整備に貢献していきます。

AGC グループは、中期経営計画 **AGC plus-2026** において、3 つの社会的価値を掲げており、このうち“Blue planet”では、原料の調達からお客様の使用に至るまでの環境負荷低減に取り組んでいます。本実証実験を通じて、自動車ガラスのリサイクル拡大を図り、持続可能な地球環境と循環型社会の実現に貢献していきます。

〈注釈〉

\*1 AGC 調べ（2026年6月時点）

\*2 ガラスを細かく砕いたもの。